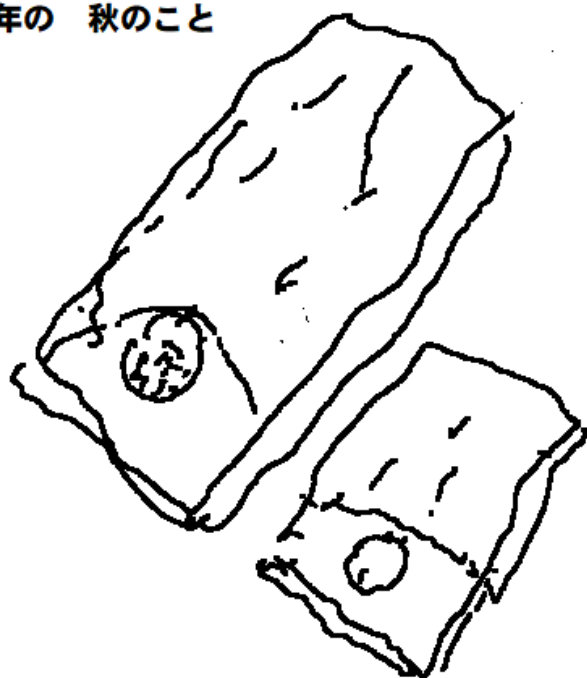


昭和21年の 秋のこと



富子は 夫が抱く 我が子の写真を
アルバムに貼り
ふたたび 帰らじ 「如何なる運命の子」
と記した



戦後の混乱期を
幼子二人を抱え
生き抜くすべが
有るのか 重たく
のしかか
てきた

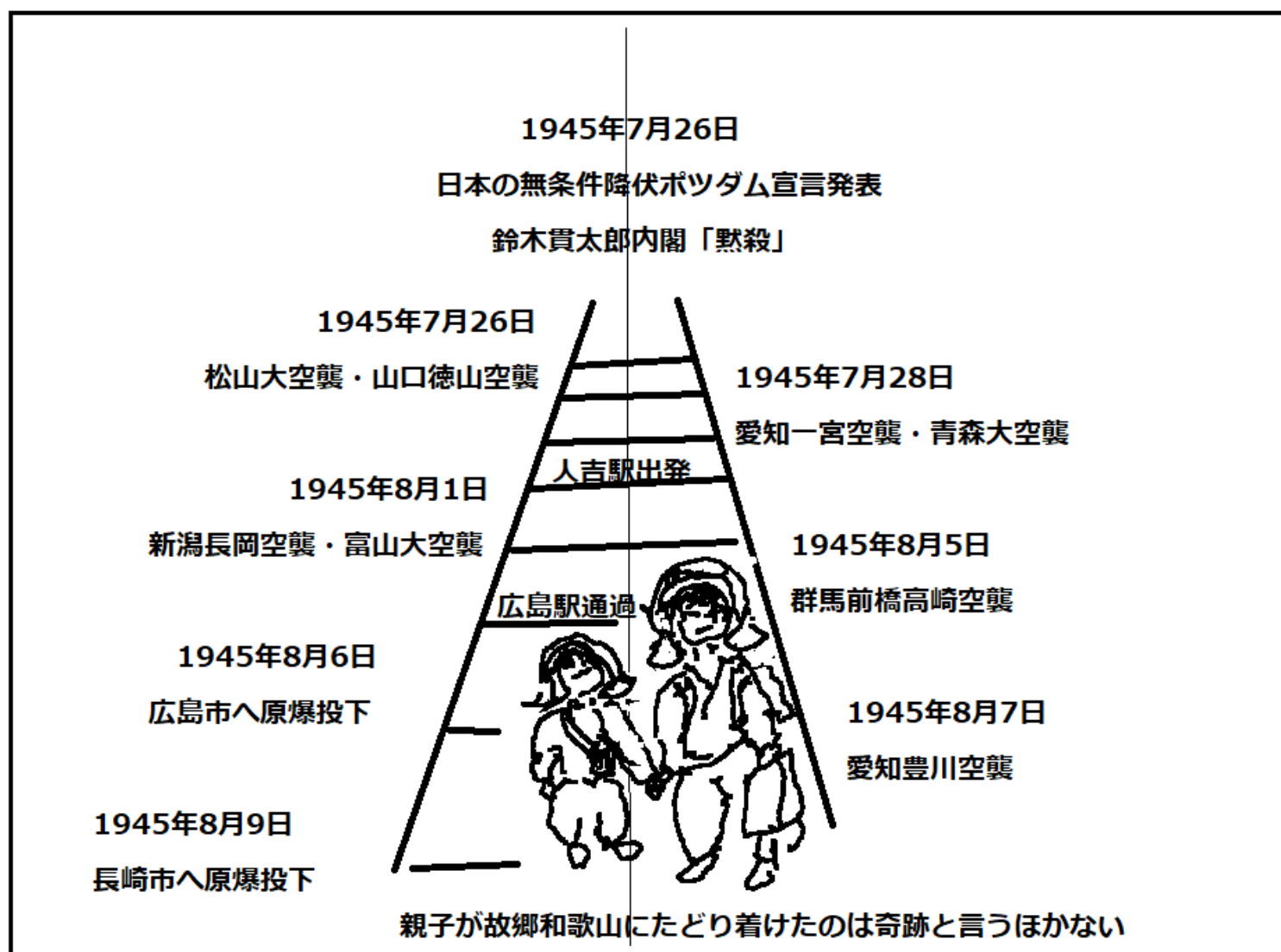


涙が頬をつたい
アルバムを濡らした

1 如何なる運命の子

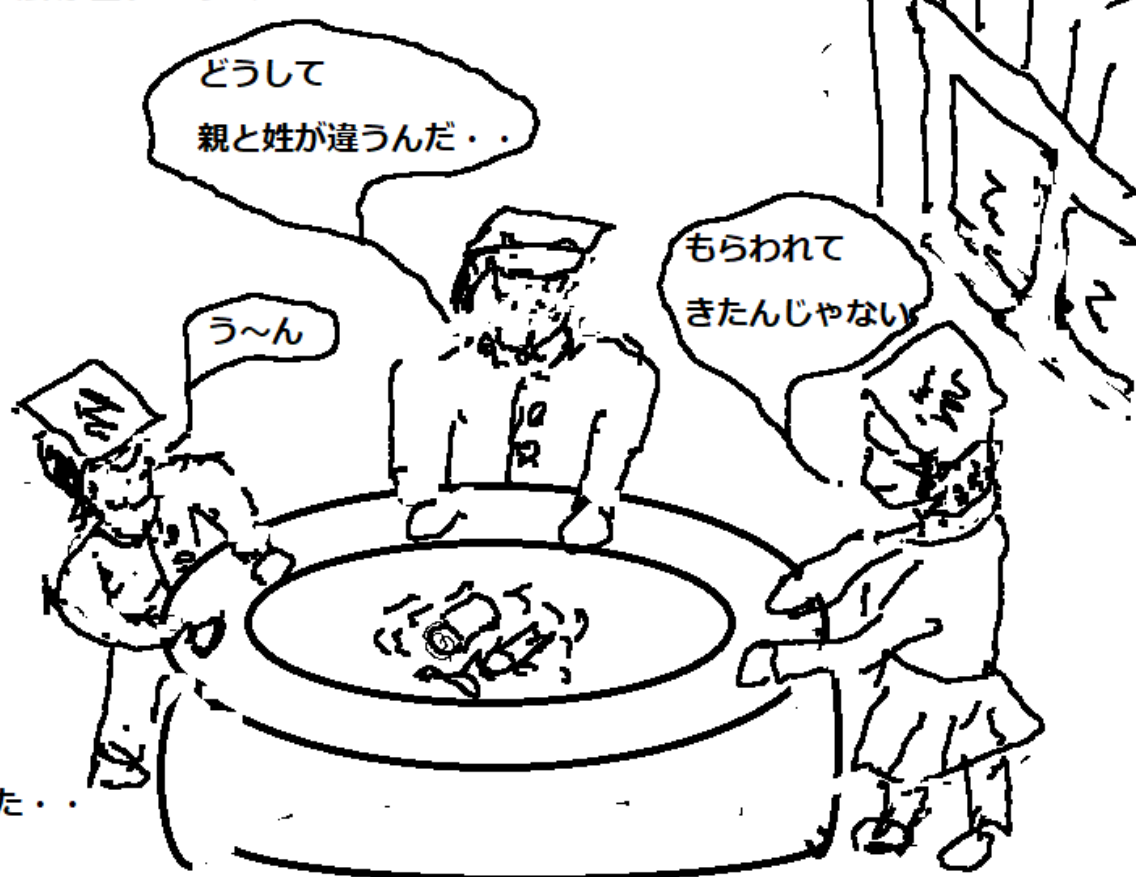


3 舟艇特攻震洋隊への転任



4 故郷和歌山への帰路

昭和20年代の冬 幼稚園の教室には
大きな火鉢が置いてあった



タダシは
説明できず
ただ黙っていた
心は傷ついていた・・・